

(別記様式)

平成27年度 府立桃山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。 ○SSH2期目の指定の基、「自然科学科」「普通科」それぞれの特色を踏まえ、生徒一人ひとりの個性や能力を伸長させ、魅力ある学校づくりを一層推進する。 ○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。 ○新学習指導要領をふまえた教育活動を推進する。	成果 (1) 本校の特色や新制度の下での普通科の教育理念、またSSH指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度にひき続き学習意欲が高く部活動や本校の様々な取組に高い関心のある中学生の本校志願を得、入学生を迎えることとなった。 (2) SSH事業において、1期目5年間の成果を踏まえ、自然科学科における深化と普通科への拡大を目指した2期目の申請を行い、平成27年度から5年間の継続指定を受けることが出来た。 (3) 組織的できめ細やかな進路指導により、国公立大学合格者99名等過去最高の進路の実現となった。 (4) 課題を抱える生徒に対して、全教職員の共通理解を図りながら組織的に支援することで、学校生活や学習継続に着実な成果をあげた。 課題 (1) 評価の在り方に関して全教員の共通理解を一層図るとともに、生徒の希望進路実現のために、AO・推薦入試や二次試験に向けた組織的な指導や補習の在り方についてさらに工夫する必要がある。 (2) 京都市地域における公立高校入学者選抜の変更2年目となり、普通科における教科指導や生徒指導の在り方をさらに工夫する必要がある。 (3) 普通科における特色を組織的に推進するために、GP・SSクラス（コース）における取組を組織として位置づけ、SSH事業との連携の研究を進める必要がある。 (4) 自転車乗車マナーや携帯電話・スマートフォンの使用に関して課題が多く、教員の研修や保護者への啓発を進めるとともに継続して生徒への指導を強化する必要がある。	(1) 文武両道・自主自律の校是を実現すべく、限られた時間の中でも部活動の活性化を推進する。 (2) 普通科において、学力実態に応じた授業における適切な教科指導を工夫するとともに、自ら学び、考え、行動する自己管理力の育成に学校全体で取り組む。 (3) 評価の在り方について全教員の共通理解を一層図るとともに、全ての生徒の希望進路実現に向け、AO・推薦入試及び二次試験に向けた組織的な指導や補習の在り方についてさらに工夫する。 (4) 基本的生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高め、特に自転車の乗車マナーや携帯・スマートフォンの利用に対する継続的な指導を進める。 (5) 特別支援教育の充実を図り、課題を抱える生徒に対する支援に組織全体で取り組む。 (6) SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の2期目の継続指定を受け、自然科学科における深化と普通科への拡大に向けた研究開発に取り組む。 (7) 普通科における特色の推進を組織的に行う。また、SSH事業との連携や京都府総合教育センターの連携指定をふまえ、グローバル人材の育成を目指す教育の在り方について検討する。また、引き続き研修旅行の在り方を検討するとともに将来の「スーパーグローバルハイスクール」の指定を目指す。

評価領域	重点目標	具体的方策		評価			成果と課題
組織・運営	文武両道、自主自立の校是のもと、京都府のめざす人間像の実現のため、SSHをはじめとする様々な取り組みを活用しつつ、授業や行事を効果的に計画・運営していく。	各分掌・教科間で綿密な連携を行い、行事等を計画する。校内と校外の状況を的確に把握し、臨機応変に対応する。	1				
		学校関係者評価委員会やSSH運営指導委員会等、外部の意見を学校運営に生かす。	2				
教育課程の編成と実施	SSH2期目の指定の基、公立高校の中核校にふさわしい魅力的な教育課程を編成する。	新しい教育課程の編成にあたり、各教科と連携して生徒の進路希望実現に対応したカリキュラムの具体化を行う。 各教科科目での指導内容について、「探究力と想像力を備えたグローバル人材の育成」の視点を含めて実施する。	3				
		探究型融合教科「グローバルサイエンス(GS)」を深化・進化させる。	4				
学習指導	質の高い学力を育むため、継続的に授業改善を行う。	授業で生徒の学力を伸ばす視点で、研究授業、公開授業、教員研修などを活用して授業改善を図る。 シラバスを活用して、自主的で計画的な学習態度の育成を図る。	5				
	評価の在り方について、学校全体で共通認識を持ちながら、新しい学習指導要領に対応した評価基準や評価方法の充実をはかる。	各科目の評定について集約して全校的な状況を明らかにし、教員全体の共通理解を図る。 観点別評価の完全な実施に向けて検討する。	6				
	自然科学科だけでなく普通科においても、将来自然科学の分野で国際的に活躍するための基盤となる学力を育成する。	学校設定科目の研究開発の充実発展に組織的に取り組む。	7				
		普通科におけるSSH事業の展開に取り組む。	8				
進路指導	キャリア教育の観点に基づき、生徒のキャリア形成と教職員への啓発に努める。	進路指導部と学年、教科の連携を密接にとり、学年・学科・コースに応じたきめ細やかな進路ガイダンスやキャリアアップ講座を実施する。	9				
	確かな学力の育成に向け、自主的・主体的に学習する力を育成する。	教科、分掌の連携のもと、自習室の活用など、全ての生徒の進路実現に資する効果的な補習体制を	10				

		構築する。また、個別相談、小論文や志望理由書等の組織的指導を充実させる。					
	平成27年度以降の大学入試への対応を検討する。	新課程による大学入試向けさまざまな情報収集に努め、本校の教育課程編成に対して助言する。	11				
生徒指導・特別活動等	基本的生活習慣を確立させ、規範意識を高揚させ、良識ある人間性を培う。	携帯・スマホの扱いに対する指導を強化するとともに、遅刻及び身だしなみ、あいさつ等に対して、教職員が一体となって指導にあたる。	12				
		自転車通学者に対する安全指導を徹底し、交通法規や交通マナーを逸脱した生徒に対する指導を強化する。	13				
	人間の尊厳に対する自覚を高め、自他の生命と人権を尊重する態度を育成する。	いじめ・悪ふざけ・中傷など、個人の人権を脅かす行為については、確固とした態度での確に対処する。	14				
	クラス活動・学校行事・部活動・生徒会活動等の諸活動に積極的に取り組ませて高校生活の充実を図る。	分掌間の連携を緊密にして、学校行事を組織的に運営できるように取り組むとともに、生徒会の活性化によって学校行事のさらなる充実を図る。	15				
健康・安全	健康面で自己管理する能力を育成し、基本的生活習慣を確立させる。	生活保健委員会を通じて健康安全への啓蒙活動を行う。危険ドラッグや性感染症など身近なテーマでの講演会を実施し、高校生として責任ある行動が取れるよう指導する。	16				
	心身の健康に課題を抱えた生徒への支援の充実を図る。	教育上、特別な支援を必要とする生徒に対して、教科担当者会議を実施し、共通認識・支援方法の確認を行い、適切な対応をする。特に注意を要する生徒に対する緊急時対応として、校内体制を徹底し、組織全体で取り組む。	17				
	環境美化について関心を持たせ、環境保全を実行できる能力を育成する。	生徒美化委員会活動を中心に環境美化活動を行う。ゴミの分別と減量化を徹底するため、ゴミ回収所での分別作業をクラス単位で実施する。	18				
読書指導	図書館利用を促進するとともに、書物や新聞等を積極的に読むように読書指導を充実させる。	年間を通して読書の啓発に努めるとともに、「読書月間」を設けて読書を推進する。また使用方法を周知し、調べ学習に資するとともに一層の図書館利用につなげる。	19				
	芸能鑑賞の内容を充実し、質の高いものを生徒に提供する。	1年生古典芸能、2・3年生演劇と、芸術鑑賞の機会を生徒に与える。	20				

情報管理	校内の I C T 教育環境を整備し、教職員の I C T 利用の環境整備と支援を行う。	I C T 教育環境を計画的にデザインし、情報処理室以外にも環境の整備を支援し、I C T の教育利用を推進する。校内のサーバやコンピュータ環境の整備と安定運用を図る。	21				
広報活動	普通科・自然科学科の特色に関する広報活動の充実を図り、意欲を持つ生徒の志願に繋げる。	本校が行う学校説明会等を充実させるとともに、中学校訪問・塾訪問、府教委や塾主催説明会への積極的参加を通じて、中学生保護者の本校教育に対する理解を深める。	22				
		ホームページ、広報紙、DVD等を通じて情報発信に努めるとともに、魅力ある「学校案内」や「研究紀要」の作成を行う。 課題研究発表会、入試説明会、SSH報告会などを通してSSHの成果を公表する。	23				
家庭・地域社会との連携	家庭・地域社会との連携を密にし、学校に対する信頼を確立する。	学校と保護者との連携を緊密にとるとともに、各種保護者説明会、学年だより、PTA広報紙「きんがわら」への作成協力、「お知らせメール」等を活用した情報発信を行い、本校の教育活動に対する保護者の理解を深める。	24				
		天体観測会や理科実験教室などを通して、家庭や地域社会にSSHの活動に対する理解を深める。	25				

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方 向 性	
-------------------------	--